

6月の科学あそび分科会

# 「組みひもづくり」

小川真理子

今日は組みひもを作るのですが、最初にひもの素材の糸についてみてみました。『糸あそび布あそび』(田村寿美恵/文 福音館書店)には糸は何本かを撚りをかけて作ってあると書いてあります。木綿糸、絹糸、毛糸、麻糸などいくつか持っていて、端をほぐして虫眼鏡で見ると、確かに細い糸でも何本かのもっと細い糸をより合わせてできていました。

さて、組みひもの作り方ですが市販品でもハナカなどで組みひもディスクというものを売っています。ただ、市販のものは一枚のディスクでいろいろな組み方に対応するため使い方を読むだけで頭が痛くなりそうです。今回紹介したのは段ボールを使って作るので、一枚のディスクで一種類の組み方だけをします。そのためディスクに直接糸のかけ順を書き込むことができ誰でも簡単に作れるのです。小学生以上の女の子が中心ですが、文庫で子どもたちがじっくりやってくれます。ポシェットのひもや帽子を飛ばないように止めておく紐などに実際に使っています。

2種類のひもディスクを紹介しました。丸組みと平組みのひもですが、ここでは丸組みのひもの作り方を紹介します。図のような直径15cmくらいの円を段ボールで作り、周りに8か所切り目を入れます。真ん中には直径2cm程度の穴を開けます。糸は8本、作りたい長さの2.5倍程度に切って、一端は結んでおきます。穴から糸を出して、

それぞれ8か所の溝にかけておきます。

いちばん上の糸をはずし、左手でちょっと押さえておきます。下の糸をはずして上のあいた溝に挟みます。左手で抑えた糸(うえからもってきたもの)は、あいた下の溝に挟みます。これで1回かけ替えたので次に行きます。ディスクを→方向に回して、次の溝が上に来るようにします。そして最初と同じように上と下の糸を挟み変えます。これを次々とやっていくだけです。

途中で「今、どこの糸をやっていたかしら？」とわからなくなることもあるでしょう。穴の部分を見ると、最後にかけた糸がどれかわかります。それで、その次の所から再開すればいいのです。とっても簡単!参加された方たちも、やり始めると黙々と専念していました。

